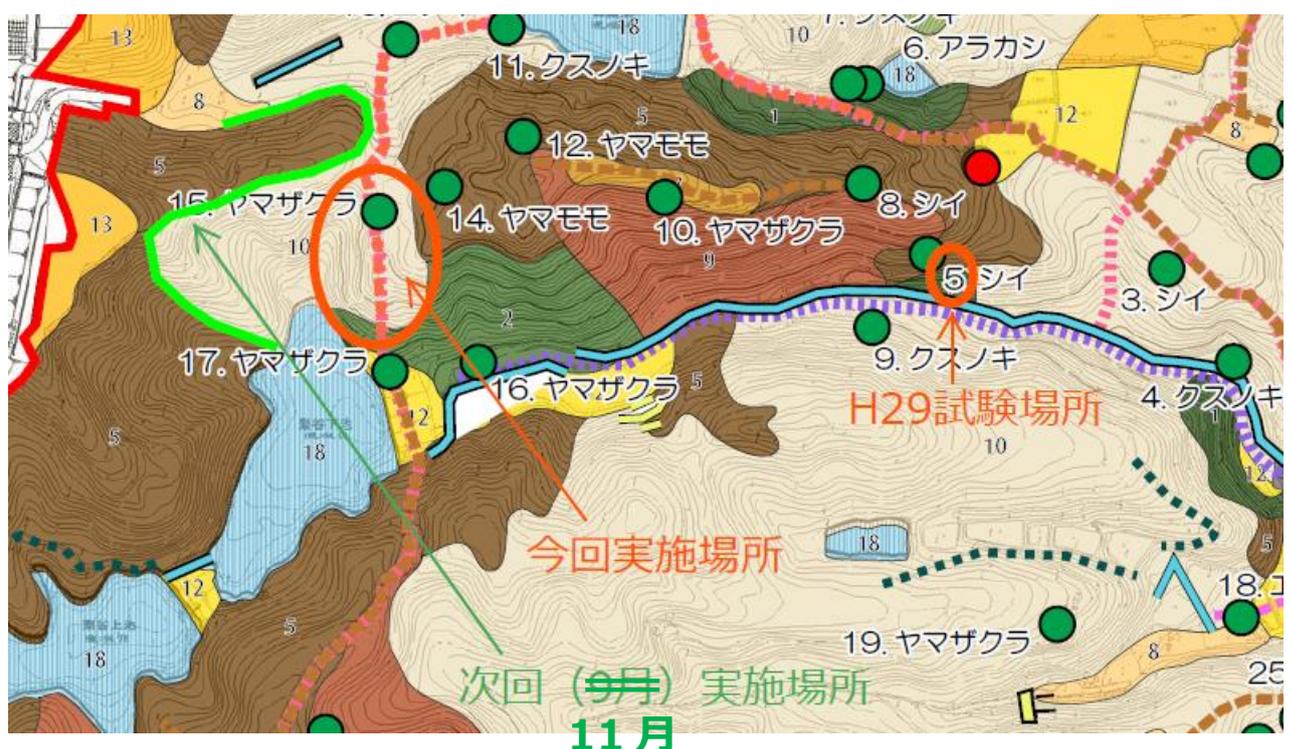


「東地区 竹稈注入処理試験」実施報告

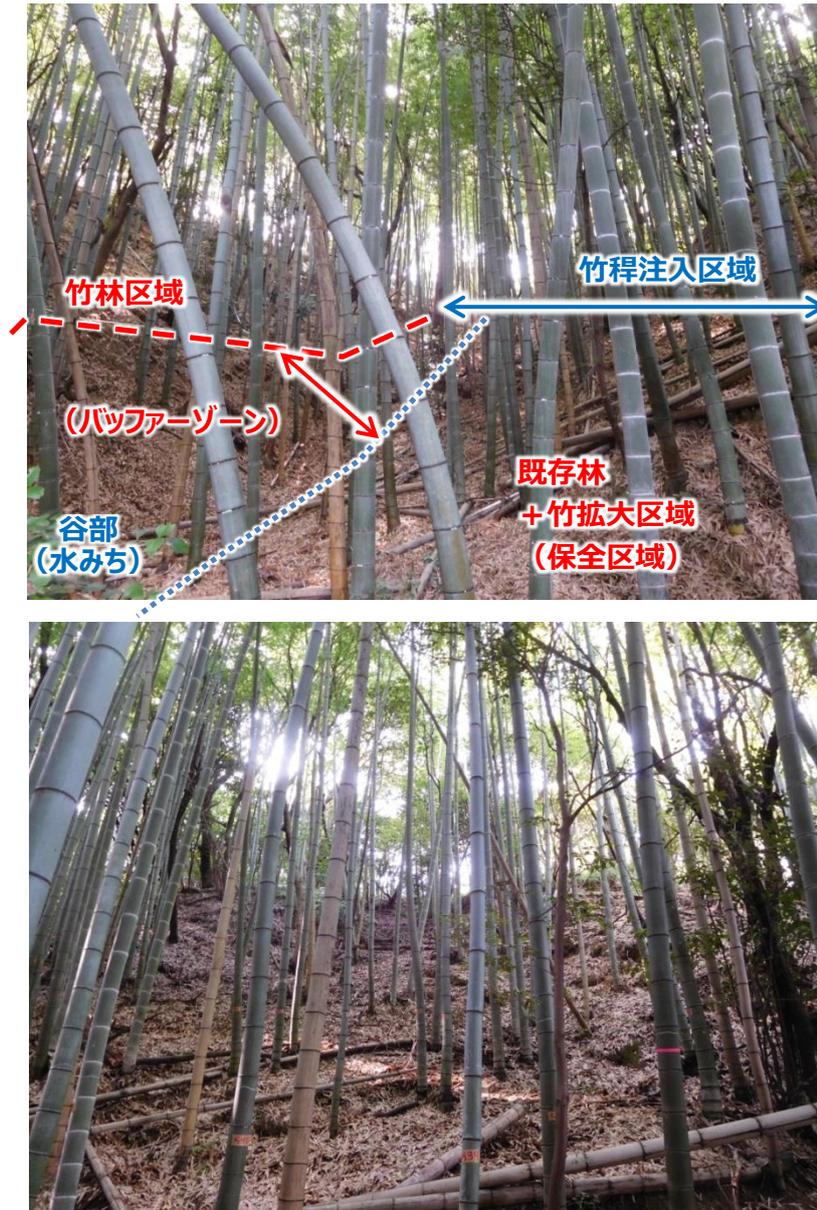
- 実施日：平成30年7月26日（木）
- 作業時間：午前 約1時間30分、午後 約3時間
- 作業人数：6人 + 森林総合研究所 奥田氏、環境農林水産総合研究所 山田氏
- 注入本数：517本（No.1～351、No.500～666）
- 準備物：
 - ・グリホサート系薬剤（商品名：ラウンドアップマックスロード） 5リットル
→うち、3.7リットル程度使用
 - ・電動ドリル（10mmビット使用） 2台
 - ・分注器（森林総合研究所所有品を借用） 1台、スポイド
 - ・布テープ、油性マジック、ビニール紐（注入区域識別用）、空きペットボトル、漏斗
- 実施場所：



15番及び17番のヤマザクラのある既存林に竹が侵入してきていることから、谷部～竹拡大部分について竹稈注入処理の試験を実施。



■実施場所写真：



- ①林が拡大してきている部分のうち、地形的に区切りやすい部分までを「既存林保全区域」と設定。
※今回は谷部の「水みち」を区域線に設定。
- ②区域線より 5～10m程度竹林区域側をバッファゾーンと設定。
- ③保全区域+バッファゾーンについて薬剤注入実施。

作業は

- ①電動ドリル
- ②薬剤注入（原液 10ml）
- ③テープ・番号記載

に分かれて実施。

※どれが薬剤注入した竹がわからなくなるため、②と③は一緒に作業を行う方がよい

穴を塞いだテープに番号記載。

※ 1～351、
500～666 の 計 517 本

←

谷部は竹の優先率ほぼ 100%。
斜面上部は既存林と竹林の混合林。

■経過観察について：8月31日（1か月後）

緑の葉が相当数落ちている（地面が緑色の葉でおおわれている状態）。

ただし、落葉していない竹もある。



■経過観察について：9月26日（2か月後）

かなりの竹の落葉が終わっているが、一部落葉していないものもある。

落葉していない竹も揺るとかなりの数の葉が落ちてくるため、もう数週間で完全に落葉するものも多いと思われる。



また、池際のところに生えている竹はほとんど落葉していない。ラウンドアップマックスロード液の粘性が高く、スポイドを使って注入した際に、目盛り量が注入されていないのではないかと感じたため、途中で注入量を増やした（5ml スポイドの場合、3回注入）。増やす前の区域はやや注入量が少ない可能性があるため、池際の竹については注入量不足で枯れが進んでいない可能性がある。

※517本で3.7リットル使用しているため、平均7.2mlの注入量。

■今後の予定：

○平成29年度竹稈注入区域（217本）及び今回注入区域（517本）については、今年度の工事にて上部を伐採予定

⇒平成31年度の4月にタケノコがどの程度出るか出ないかを観察予定

（平成30年春は稀にみる不作年だったため、注入していない区域もほとんどタケノコが出なかった）

○秋処理（9～11月、完全落葉までの期間8～11か月）についても実施予定。

⇒効果が期待できるようであれば、作業的には夏季よりも容易

⇒11月頃に実施予定

処理時期

夏処理(6～8月)
完全落葉までの期間
2～5ヶ月

秋処理(9～11月)
完全落葉までの期間
8～11ヶ月

ラウンドアップマックスロード商品紹介 HP
(日産化学(株))より抜粋→